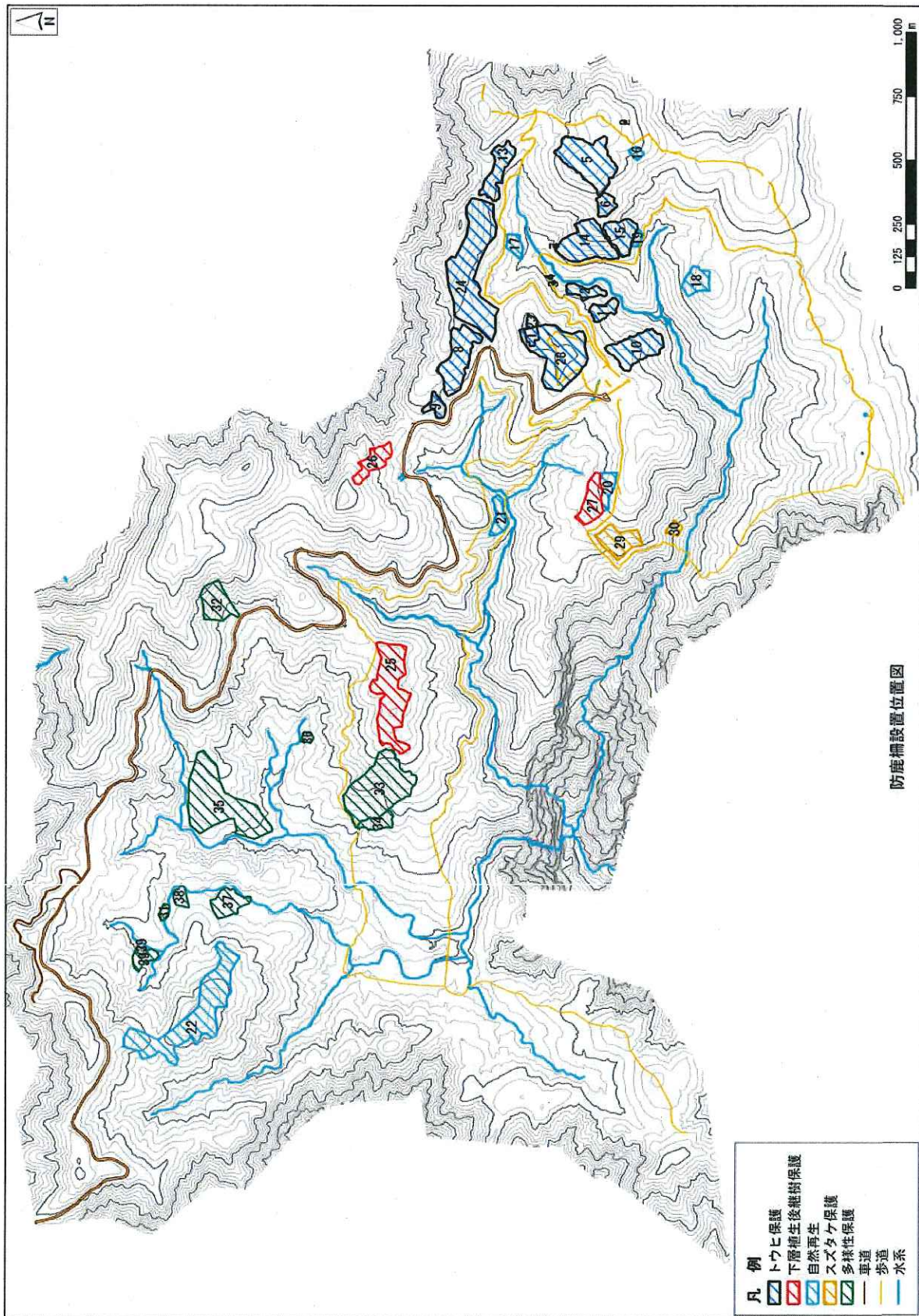


森林生態系保全再生事業に係る防鹿柵の構造と保守状況

防鹿柵の構造	結 果	今後の課題
耐雪用格子柵 別紙構造図参照	● 平成 11 年度～14 年度にかけて 5 箇所 (6.29ha) 設置、平成 11 年度試験用 (0.01ha) 含む。 ● 縦格子は上下に継ぎ手金具を設置しており、格子間隔に幅を持たせることが出来る形状であるが、シカが格子を広げ柵外へ脱出したと考えられる変形が確認された。(1 回) ● シカが侵入した形跡がごく稀に確認されたものの、柵内の植生への被害は確認されていない。また、子鹿の侵入があったものの、巡回による追い出しで対応。 ● 表土の流出により、柵の下部の隙間が大きくなり、子鹿程度ならば侵入可能な状態の箇所が発生した。(保守巡回により石で塞ぐ等の対策を行う) ● 積雪及び冬期の霜による格子柵のゆがみや接続金具の破損が生じた。(保守巡回により針金等で応急対応、又は別途修理を行う) ● 施工性及び、景観への影響が大きく、平成 15 年度以降は FRP 柱+ステンレスネット柵に構造の変更を行った。	● 年間複数回の保守巡回及び破損箇所の修繕が継続的に必要である。(巡回時期は、春雪解時期。台風等の異常気象の後。) ● 毎年倒木による破損があることから修繕費が必要。
FRP 柱+ステンレス ネット柵 別紙構造図参照	● 平成 15 年度から設置、現在まで 27 箇所 (42.31ha) 設置、平成 11 年度試験用(0.01ha)含む ● 積雪が多い年において、ネット上部ワイヤーと支柱の接続部付近で融雪時の引っ張り圧力によりステンレスネットが破れるケースが発生した(保守巡回により針金等で応急対応、又は別途修理を行う) ● 大径木の倒木による破損については、専門業者による修繕で対応した。 ● 柵支柱根本の土砂が雨により流出し、支柱のぐらつきが認められた。 ● 偶然ネット付近の倒木による根返りで、ネットカートの押さえ金具が抜け上がり、シカが侵入した形跡があった。(巡回により柵内のシカは確認できなかった) ● 斜面下方への落石がネットに引っかかる等の障害があったが破損には至っていない。 ● 倒木がネットに引っかかる障害、支線ワイヤーが数カ所土際のフックから外れる等の軽微な障害が発生した(保守巡回により倒木の除去及び支線ワイヤーの固定を行った) ● 地表の流水により、枯れ葉等が下方斜面のネットに堆積し、柵の内外に段差を生じる。 ● 小規模な沢を横断するネットには、流水による枯れ葉等の堆積が認められることから、定期的な保全が必要。 ● 部材が軽く、施工性が良く、風致上も目立ちにくい特質がある。 ● 平坦部等の施工条件が良い場所については、FRP 柱に替わり間伐材の丸太を併用。	● 年間複数回の保守巡回及び破損箇所の修繕が継続的に必要である。(巡回時期は、春雪解時期。台風等の異常気象の後。) ● 毎年倒木による破損があることから修繕費が必要。

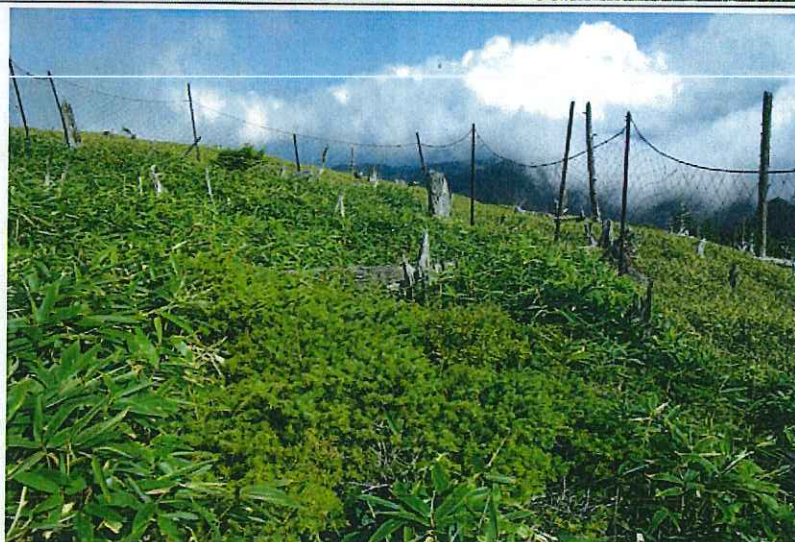


防鹿柵設置位置図

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	1	設置年度	S62・H3	構造種別	木柱＋金網
面積	0.30ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要	苔探勝路内に設置されている防鹿柵。設置年度は最も古い。 名古屋大学による調査が柵内外で実施されている。				
柵内の植生の状況	上層木は、トウヒ、ウラジロモミが優占する。下層は、設置当初はコケが優占していたと考えられるが、現在では、周辺からミヤコザサが侵入している箇所が見られる。ミヤコザサが侵入していない箇所は、下層にイトスゲやコケ類が繁茂している。また、ギャップ地では、タラノキなどの先駆性樹種が繁茂している。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	2	設置年度	S62	構造種別	ポリ柱＋ポリネット
面積	0. 01ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		三重県側国有林内に設置されている簡易防鹿柵。			
柵内の植生の状況		ミヤコザサ草地に設置されている。内部は、ミヤコザサが繁茂しているが、トウヒ、ウラジロモミの後継樹も生育している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	3	設置年度	H11	構造種別	耐雪用格子柵
面積	0. 01ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。 防鹿柵の構造を検討するために試験的に設置した柵。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占する。下層は、ミヤコザサ、スズタケが混生している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	4	設置年度	H11	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 01ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。 防鹿柵の構造を検討するために試験的に設置した柵。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占する。下層は、ミヤコザサが優占している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	5	設置年度	H12	構造種別	耐雪用格子柵
面積	3.08ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		正木峠に設置されている。 1980年代半ばまでトウヒ群落が成立していたが、現在は、ミヤコザサ草地になっている。現在、柵内に自然再生に関する調査の調査対照区(タイプⅠ(既設))、実証実験区が設定されており、トウヒ苗木の植栽も試験的に行われている。			
柵内の植生の状況		柵内のほとんどがミヤコザサ草地になっているが、一部、疎林状にトウヒ、ウラジロモミが生育している場所、ゴヨウツツジの低木林になっている場所が見られる。柵内のミヤコザサは一面に繁茂しており、高さは1mぐらいになっている。数は少ないが、一部の場所でトウヒの後継樹がみられる。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 トウヒ苗木の試験植栽地					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	6	設置年度	H12	構造種別	耐雪用格子柵
面積	0. 50ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要	正木峠に設置されている。 1980 年代半ばまでトウヒ群落が成立していたが、現在は、ミヤコザサ草地とトウヒ群落の境界となっている。				
柵内の植生の状況	疎林状にトウヒ、ウラジロモミが生育している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂しており、高さは1mぐらいになっている。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	7	設置年度	H13	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 01ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要	中道沿いに設置されている。 防鹿柵の構造を検討するために試験的に設置した柵。 入口が無く、柵内に入ることができない。				
柵内の植生の状況	上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、イトスゲやコケが優占している。ミヤコザサはほとんど見られない。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	8	設置年度	H13	構造種別	耐雪用格子柵
面積	2. 28ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		ドライブウェイ沿いに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	9	設置年度	H13	構造種別	耐雪用格子柵
面積	0. 42ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		ドライブウェイ沿いに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、ウラジロモミ、ブナが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	10	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	1. 98ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		ビジターセンターの下に設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	11	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 59ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサ、スズタケが混生している。ササに覆われず、コケが優占する場所も見られる。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	12	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 57ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサ、スズタケが混生している。ササに覆われず、コケが優占する場所も見られる。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	13	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	1. 37ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		上道沿いの日出ヶ岳から巴岳にかけての尾根の南斜面に設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂しているが、ガレ場はイトスゲやコケ類が優占し、トウヒ等の後継樹が生育している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 ギャップ付近 ガレ場にはイトスゲやコケが 優占し、ミヤコザサは生育し ていない。					

防鹿柵設置状況 (2008 年)

柵番号	14	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	2. 49ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。 柵内に入る入口は無い。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。柵の上部にはトウヒが疎林状になっており、ギャップが広がっている場所も見られる。下層は、ミヤコザサが生育している場所が多いが、北向き斜面ではササが生育せずイトスゲ、コケが優占する場所が見られる。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵の上部					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 北向き斜面の内部					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	15	設置年度	H14	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	1. 23ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		中道沿いに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。柵の上部にはトウヒが疎林状になっており、ギャップが広がっている場所も見られる。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵の上部					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 柵の下部					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	16	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 17ha	設置目的	自然再生		
柵の概要		正木峠に設置されている。 柵内に自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅠ)が設定されている。			
柵内の植生の状況		ミヤコザサ草地となっており、ミヤコザサが一面に繁茂しており、高さが1mぐらいになっている。数は少ないが、ガレ場沿いにトウヒの後継樹が生育している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵の入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 柵の上部					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	17	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 43ha	設置目的	自然再生		
柵の概要		上道沿いに設置されている。 柵内外に自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅡ)、実証実験区が設定されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂しており、高さが 70cm ぐらいになっている。柵の下方には、ギャップが広がっている。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 柵の上部					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	18	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 85ha	設置目的	自然再生		
柵の概要		中道沿いに設置されている。 自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅢ)が設定されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミ、コメツガが優占している。下層は、柵の周辺部はミヤコザサが一面に繁茂しており、高さが 50cm ぐらいになっている。柵の中心部で調査対照区が設定されている場所では、コケが優占している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 調査対照区付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	19	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 17ha	設置目的	自然再生		
柵の概要	中道沿いに設置されている。 自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅣ)が設定されている。				
柵内の植生の状況	上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、柵の周辺部はミヤコザサが繁茂しており、高さが 40cm ぐらいになっている。柵の中心部で調査対照区が設定されている場所では、コケ、イトスゲが優占している。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 調査対照区付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	20	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 63ha	設置目的	自然再生		
柵の概要		大台山の家近くに設置されている。 自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅤ)、実証実験区が設定されている。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂しており、高さが 70cm ぐらいになっている。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 調査対照区付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	21	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 65ha	設置目的	自然再生		
柵の概要		ナゴヤ谷沿いに設置されている。 柵内外には自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅥ)、実証実験区が設定されている。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ミズナラ、ミズメ、ウラジロモミが優占している。下層は、スズタケが繁茂しており、高さが 100cm ぐらいになっている。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 調査対照区付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	22	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	5. 62ha	設置目的	自然再生		
柵の概要	経ヶ峰付近の尾根上に設置されている。 柵内外には自然再生に関する調査の調査対照区(植生タイプⅦ)が設定されている。かつては下層にスズタケが繁茂していたが現在はまばらに稈高の低いスズタケが見られる。 柵設置前から中静、明石の調査プロットが設置されている。				
柵内の植生の状況	上層は、入口付近はブナ、イチイ、ウラジロモミ、ヒノキ、調査対照区付近はブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、全体的にミヤマシキミの被度が高くなっている。柵設置前にほとんど見られなかったスズタケが回復傾向にあり、高さが 25cm ぐらいになっている。また、柵内部には、ギャップが含まれており、タラノキ、ミズメ等が生育しており、更新が進んでいる。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	23	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 17ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		苔探勝路近くに設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサの被度が高くなっているが、イトスゲが優占する場所も見られる。また、柵内部には、ギャップが含まれており、タラノキ、ミズメ等が生育しており、更新が進んでいる。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 柵内のギャップ					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	24	設置年度	H15	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	6. 02ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		上道沿いに設置されている。 平成8～10 年に設置された防鹿柵を張り替えたもの。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	25	設置年度	H16	構造種別	FRP 柱、木柱＋ ステンレス入ネット
面積	4. 00ha	設置目的	下層植生後継樹保護		
柵の概要		七つ池に設置されている。 柵設置前から中静・明石の調査プロットがある。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤマシキミが優占しているが、湿地状になっている場所ではバイケイソウが優占している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	26	設置年度	H17	構造種別	FRP 柱、木柱＋ ステンレス入ネット
面積	1. 02ha	設置目的	下層植生後継樹保護		
柵の概要	ナゴヤ岳の南斜面に設置されている。 柵設置前から中静・明石の調査プロットがある。				
柵内の植生の状況	上層は、ブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一 面に繁茂している。防鹿柵内にはギャップが含まれている。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	27	設置年度	H17	構造種別	FRP 柱、木柱＋ ステンレス入ネット
面積	1. 22ha	設置目的	下層植生後継樹保護		
柵の概要		大台山の家近くに設置されている。 柵設置前から森林総合研究所の調査プロットがある。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、ミヤコザサが一面に繁茂している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	28	設置年度	H17	構造種別	FRP 柱、木柱＋ ステンレス入ネット
面積	4. 26ha	設置目的	トウヒ保護		
柵の概要		苔探勝路に設置されている。 防鹿柵には歩道が通っているため、柵の入口は柵が無く開放されており、シカが柵内に侵入できないようにグレイチングが設置してある。			
柵内の植生の状況		上層は、トウヒ、ウラジロモミが優占している。下層は、かつてはコケが優占していたが、現在はスズタケ、ミヤコザサが覆っている場所が多くなっている。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	29	設置年度	H18	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	1. 57ha	設置目的	スズタケ保護		
柵の概要		大台山の家の近くに設置されている スズタケが衰退し始めている場所に設置した。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、スズタケが優占 しており、柵設置後は、回復傾向にある。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	30	設置年度	H18	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 15ha	設置目的	スズタケ保護		
柵の概要		シオカラ谷近くに設置されている スズタケが衰退し始めている場所に設置した。			
柵内の植生の状況		上層は、ブナ、ミズナラが優占している。下層は、スズタケが優占しており、柵設置後は、回復傾向にある。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	31	設置年度	H18	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 17ha	設置目的	多様性保護		
柵の概要	コウヤ谷の沢沿いの湧水地を含む場所に設置されている				
柵内の植生の状況	上層は、ブナ、サワグルミが優占している。柵設置後は、細流沿いにタニソバ、ツルネコノメソウ等の湿性植物が回復傾向にある。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 湧水池付近					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	32	設置年度	H18	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	1. 48ha	設置目的	多様性保護		
柵の概要	ヤマト谷上流部の沢沿いに設置されている				
柵内の植生の状況	上層は、ブナ、サワグルミが優占している。下層は、沢沿いはカワチブシ、ヤマシャクヤクが生育している。柵設置後は、ワサビ、テバコモミジガサ等が回復傾向にある。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9					

防鹿柵設置状況（2008 年）

柵番号	33	設置年度	H19	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	4. 62ha	設置目的	多様性保護		
柵の概要		七つ池西側の沢沿いを中心に集水域を囲うように設置されている。			
柵内の植生の状況		上層は、沢沿いはサワグルミ、トチノキ、斜面はブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、沢沿いはカワチブシ、ヤマシャクヤク、ジュウモンジシダが生育しており、ガレ場はコケ類が優占している。斜面はミヤマシキミがパッチ状に優占している場所が見られるが、ほとんど植生は見られない。 沢沿いは苔むした倒木が多く、イワギリソウなどが着生している。			
柵の外観 撮影年月 2008. 9 柵入口付近					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 沢沿いのガレ場と倒木					

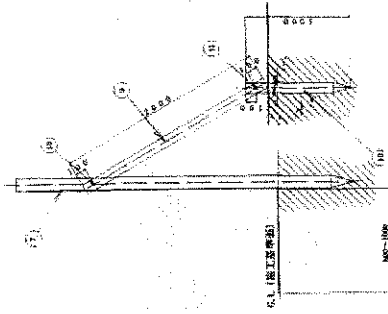


防鹿柵設置状況 (2008 年)

柵番号	34	設置年度	H19	構造種別	FRP 柱＋ステンレス入ネット
面積	0. 61ha	設置目的	多様性保護		
柵の概要	七つ池西側の沢沿いに設置されている。 No.33 に隣接しており、沢沿いに設置する防鹿柵の試験を含めて設置している。				
柵内の植生の状況	上層は、沢沿いはサワグルミ、斜面はブナ、ウラジロモミが優占している。下層は、沢沿いはカワチブシ、ヤマシャクヤク、ジュウモンジシダが生育しており、ガレ場はコケ類が優占している。斜面は、ミヤマシキミがパッチ状に優占している場所が見られるが、ほとんど植生は見られない。				
柵の外観 撮影年月 2008. 9 沢を横断している箇所					
柵内部の状況 撮影年月 2008. 9 沢沿いのガレ場					

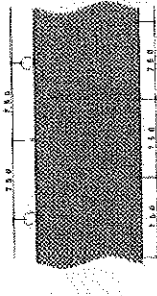
防鹿柵構造図(木支柱) 尺度 1/20

防鹿柵側面詳細図

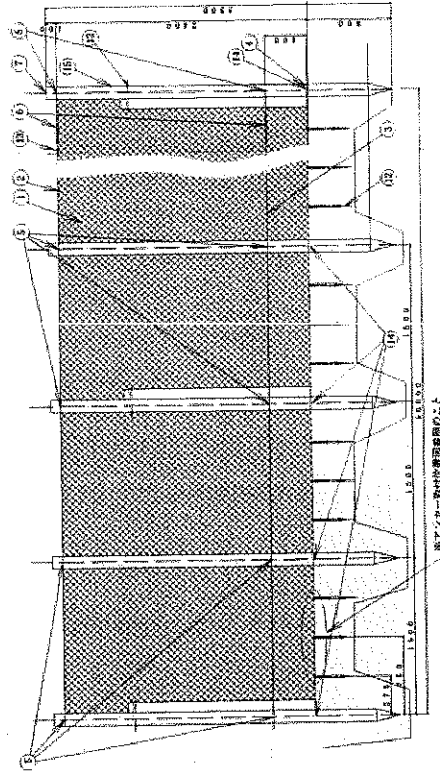


スカート部詳細図

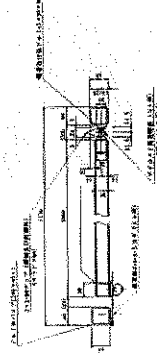
※アンカー取付位置図
アンカー設置間隔、柱間と端部位置に付は必ず



防鹿柵正面詳細図

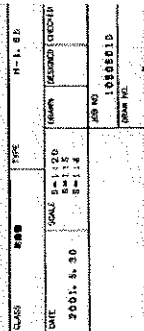


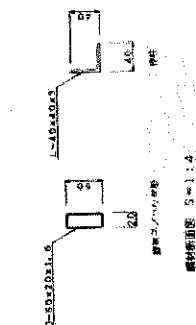
出入り口正面詳細図 縮尺 Free



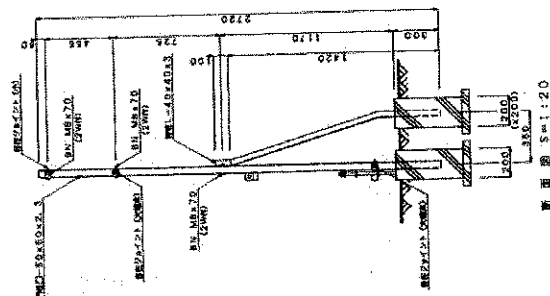
水谷ヶ原自然生楽園整備工事部品表			
品名	単位	数量	1700円税別
1. 木支柱(φ100×2000)	本	10	4000
2. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
3. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
4. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
5. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
6. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
7. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
8. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
9. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
10. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
11. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
12. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
13. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
14. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
15. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
16. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
17. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
18. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
19. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000
20. 防鹿柵パネル(1500×1800)	枚	10	18000

上 部 材	防鹿柵パネル(1500×1800)
中 部 材	防鹿柵パネル(1500×1800)
下 部 材	防鹿柵パネル(1500×1800)
部 材 名	防鹿柵パネル(1500×1800)
部 材 数	10
部 材 単 位	枚
部 材 単 価	1800
部 材 総 額	18000





03-1-20



11/20/20

- [illegible]

[illegible]